



1 はじめに

新学習指導要領では、校種を越えて共通理解することが求められています。「小・中・高等学校で一貫した目標を実現する」ことが謳われ、自校種の情報を知っているだけでは十分ではありません。

例えば、新小学校学習指導要領では he や she など「三人称」を含んだ文を扱うことになっていますが、いわゆる「三人称単数現在のS」を学習する訳ではありません。子どもたちの適切な学習のためには、中学校の先生方が小学校では何を学ぶのかを理解しておく必要があります。校種を超えて、情報共有や情報交換を十分に行いましょう。

「新学習指導要領を読むのは大変」という声も耳にしますが、新学習指導要領は、具体的な活動例まで挙げながら、分かりやすく記述されています。来年度からの移行期間に向けて、是非読んでおきたいものです。

2 新学習指導要領「Q&A」

Q 4 : 小学校3・4年生の技能について教えてください。

現行小学校学習指導要領の外国語活動では、「聞くこと」「話すこと」の2技能ですが、新小学校学習指導要領の3・4年生外国語活動は「聞くこと」「話すこと [やり取り]」「話すこと [発表]」の3領域となります。なお、「技能」という言葉ではなく「領域」という言葉を使うようになります。

現在の外国語活動

聞くこと

話すこと

新小学校学習指導要領の3・4年生の外国語活動

聞くこと

話すこと [やり取り]

話すこと [発表]

Q 5 : 小学校5・6年生の技能について教えてください。

新小学校学習指導要領の5・6年生では「聞くこと」「読むこと」「話すこと [やり取り]」「話すこと [発表]」「書くこと」の5領域となります。

なお、これについては、新中学校学習指導要領でも同様となります。既に整備・活用されている CAN-DO リストについても、5領域にしていくことが求められます。

現在の外国語活動

聞くこと

話すこと

新小学校学習指導要領の5・6年生の外国語科

聞くこと

話すこと [やり取り]

話すこと [発表]

読むこと

書くこと

Q 6 : 小学校のために文部科学省から研修ガイドブックが出されたと聞いたのですが…。

新小学校学習指導要領に対応して、平成29年7月に、文部科学省から「小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック」が示され、現在ダウンロードが可能となっています。具体的で分かりやすい情報と専門的な解説が記されています。私たちが知りたい情報が項目ごとに整理されていますので、目次を頼りに辞書のように活用することもできます。各校の校内研修に活用することはもちろん、授業で英語を使うのが苦手な場合にはクラスルーム・イングリッシュをまとめたページもありますので、自己研修等にも活用することができます。

1 クラスルーム・イングリッシュ

クラスルーム・イングリッシュは、児童のリスニング能力を段階的に向上させるというのではなく、「英語の授業の雰囲気づくり」としての意味合いが強い。また、教師が積極的に英語を使用することにより、児童が一生懸命に教師の英語を聞くこととする態度を引き出すことにもなる。指導者(日本人の教師)も英語を使うよいモデルとして、授業中の指示や質問にできるだけ英語を使うように努力したいものである。

クラスルーム・イングリッシュを用いるときには、ふだん日本語で児童に話すときと同じように、児童の理解の程度を確認しながら、ゆっくり、はっきりと言うように心がける。いくつかの指示を出さなければならないときは、一度にたくさん指示を出したり、長文で指示をしたりすることは避け、簡潔な文で一文一文児童の理解を確認しながら指示などの配慮が必要である。新出の表現を用いるときは、何度が聞かせるとともに、動作を加えたり、絵を描いたりして児童の理解を助けるようにする。場合によっては日本語を効果的に活用して、教師の意図するところがすべての児童に正しく伝わるように工夫したい。また、児童の目をしっかりと見て言うことを忘れてはいけない。

次に示すのは、主に授業で使用されるクラスルーム・イングリッシュである。指示を出す際には、文頭や文末に please を加えて使うようにしたい。

① 1 授業の始まり (STARTING CLASS)

研修ガイドブック イメージ

クラスルーム・イングリッシュ
を 6 P 掲載

英会話と表現例を
6 P 掲載

2 基本英会話

ALT が学校に配属された場合、様々な場面で互いの意思疎通を図らなければならない。ここでは、(1) 授業内での会話例、(2) 打ち合わせ等で用いられる会話例、(3) 授業や学校に慣れる表現例を取り上げる。いずれも、クラスルーム・イングリッシュとは違い、難しい表現が多くなるが、使いながらできるだけたくさん表現に慣れるよう努力したい。

① 1 授業内での会話例

授業内で学級担任が ALT に対してよく用いる英語は、指示や提案の場合の表現である。その内容は場面や状況に応じて様々ではあるが、授業を ALT とともに円滑に進めていくためにも、使える表現を少しずつ増やしていきたいものである。

① 14 ALT の考えを聞く

1 クラスみんなが自己紹介してください。	Could you introduce yourself to the class?
2 授業に準じた国と日本の違いや同じところを話していただきませんか。	Could you tell the students about the differences and similarities between the country you're from and Japan?
3 今日の授業はどうでしたか。	How was today's class?
4 授業にアドバイスをしてください。	Please give the students some advice.

Q 7 : 移行期間中における小学校の評価について教えてください。

平成30年度～平成31年度までの2年間の移行期間では、現行の小学校学習指導要領の下の評価規準等に基づくことになっています。また、「指導要録の取扱い」については、3・4年生は「総合所見及び指導上参考となる諸事項を記録する欄」に児童の学習状況における顕著な事項を記入するなど、外国語活動の学習に関する所見を文章で記述し、5・6年生は「外国語活動の記録の欄」に文章で記述することになっています。外国語活動については、引き続き、数値による評価は行わず、評定も行いません。

平成32年度からの全面実施における評価については、今後文部科学省から示されることになっています。

3

小中共通 外国語(英語)学習における「主体的・対話的で深い学び」の在り方

「主体的・対話的で深い学び」と聞くと、難しいことのように聞こえるものです。しかし外国語(英語)学習では、小・中学校を通じて「目的や場面、状況など」というキーワードを通してシンプルに考えることができます。

(小学校外国語活動・外国語研修ガイドブックより抜粋及び一部改)

新学習指導要領では、「目的・場面・状況などに応じて、情報や自分の考え及びそれらを表現するためにどのような言語材料等を使用するとよいかについて思考・判断すること」が重要とされ、そのような営みにより、「主体的・対話的で深い学び」が実現されると明記されています。

- (1) 「**主体的**」であるか 誰かになりきって何かを話したり、架空のことを話したりさせるだけではなく、本当の自分自身の考えや気持ちを表現させることが非常に大切です。
- (2) 「**対話的**」であるか 「対話的」な活動にするために、ペアでの対話活動を取り入れることがあるが、その対話活動が形だけのものにならないようにしなければなりません。対話する目的があること、対話する(伝え合う)内容が互いに未知であることが挙げられます。
- (3) 「**深い学び**」であるか 子どもが「意味」と「場面」、「目的」を結び付けながら言語材料を使用して言語活動に取り組んでいるという状態にすることが大切です。

つまり、「主体的・対話的で深い学び」を実現させるには、①伝え合う目的があること、②自分自身のことを伝え合わせること、③伝え合う内容が互いにとって未知であること、④ 前述の①～③の条件を具備した内容を伝え合う中で、言語材料の「意味」と「(当該言語材料が使われる)場面」と「(当該言語材料を使用する)目的」を結び付けることができるようにすることが大切です。